

## 審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和4年度 第3回甲州市戦略会議
開催日時	令和4年9月12日(月) 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	甲州市 勝沼防災センター
議題	1 寺田秀昭委員提案「甲州一滴の意識教育」 2 グループ討議「2040年甲州市で活躍する人材」 3 まとめ
出席委員	岡村美好委員、風間ふたば委員、小林和人委員、土屋隆男委員、 寺田秀昭委員、中村猛志委員、古屋亮委員、松坂浩志委員、 横内正史委員 <div style="text-align: right;">(五十音順)</div>
会議の公開又は非公開の区分	非公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	委員がより自由な発言をできるようにするため
傍聴人の数	—
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	出席者 政策秘書課3名(林リーダー、三森、宮川)
その他	

<p>内容</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議題</p> <p>(1) 寺田秀昭委員提案「甲州一滴の意識教育</p> <p>(2) グループ討議「2040年甲州市で活躍する人材」</p> <p>(3) まとめ</p>	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>○事務局(林) 開会</p> <p>○中村会長あいさつ</p> <p>○寺田委員 「甲州一滴の意識教育」について資料に基づいて説明。</p> <p>○中村会長 「2040年甲州市で活躍する人材」についてA班、B班に分かれてグループ討議をお願いする。</p> <p><b>【A班】</b> 座長：松坂浩志委員、風間ふたば委員、小林和人委員、寺田秀昭委員</p> <p><b>【B班】</b> 座長：古屋亮委員、岡村美好委員、土屋隆男委員、横内正史委員</p> <p>グループ討議：午後2時45分から午後3時45分</p> <p>○中村会長 グループ討議の内容について班ごと説明をお願いする。</p> <p><b>【A班】</b> 松坂委員</p> <p>意識教育の根底には、郷土愛を継続的に育むことが重要だということが共通認識として出てきた。ただ郷土愛を育むために、意識教育のフィロソフィーを言葉にするかしないかというところで意見が二つに分かれた。言葉にするならその言葉が継続的にいつの時代にも引き継がれていかないといけないので、その言葉は非常に意味のある、変わらぬ価値観であることが重要である。それをどうやって継続的に引き継いでいったらいいかということについては、昔からこの地域にいた人、新しくこの地域に入ってきた人、また人生のステージで考えると、小さな子どもたち、そして社会へ出て戻ってきた人、または全然違うところでこれまで過ごしてから甲州市に来た人、それぞれの価値観や育ったステージに違いがある人たちがこ</p>
--	---

こに来て、その郷土愛が育むような仕組みを考えないといけ  
ない。それをどういうふうに展開していくべきかというところ  
でいろいろ議論が出て、継続的に行うためには「場」を作ら  
なければいけないのではないかという話が出た。

「場」はどういったところかと考えた時、ステージが異なる  
人たちが郷土愛を共有できる場というのは、この地域の歴史、  
文化、この地域がどのような背景のもとに形成されてきたの  
か、地域のお祭りをどう語り継いでいくのか、そういったこ  
とをその「場」の中で共有認識とし合えることが、今後の教  
育には非常に大事ではないかという議論になった。

まとめとして、一つにはまとまらないのが、言葉にするか  
どうか、今後甲州市は「場」を作っていく必要があるのでは  
ないかということが、この意識教育というテーマの下での私  
達のグループでは議論された。

#### 【B班】 古屋委員

寺田委員からお示しいただいた資料 4 ページ「甲州市  
独自の一滴のフィロソフィー」、こういったものが甲州市の  
今後の行政課題、そして市の各施策や計画に繋がっていく  
と思うので、こういったものを作っていくことに関しては  
当然必要だという意見が出た。

ただ、世界農業遺産という切り口が果たしていいのか  
という議論もあり、ここは 2040 年に甲州市で活躍する  
人材育成という中で「甲州市独自の一滴のフィロソフィー」  
というような形で進めていくのが良いのではないかと  
いう意見もありました。2040 年に甲州市で活躍する  
人材はどんな人材なのかという議論もあり、この点  
については A 班と同じになりますが、誰を対象にするか  
という部分が重要な部分で議論が必要だと感じている。  
ただ、そうは言ってもこの 10 条の中には、基本的  
に各年齢層、全ての市民が網羅されていると思うので、  
やはりそれを市民にどう伝えていくのか、これを市民  
の皆様に出すときには統一した解釈となるようもう少し  
解説や説明文を付け加えても良いのではないかという  
意見も出た。

今回は中身がどうこうと具体的に考える時間はな  
かったので、2040 年甲州市で活躍する人材育成  
という面からこの 10 条を見た時に、何か足りて  
ない項目はないかというところを私達の班では  
最後に議論をした。その中でこの戦略会議は  
人口増を考えるという話の中で、やはり外部  
からの人材は重要、内部人材を育成するだけ  
では

<p>4. その他</p> <p>5. 閉会</p>	<p>なく外部からの人材育成をどう考えるのか、それが果たしてどの部分に入ってくるのかを議論した。外部人材育成と一言と言っても、内部から出ていった方もいれば、全くこれまで甲州市に関係がなかった方が来ることもある。その人たちの育成については、この10条では拾い切れていないので、そこを付け加える必要があるのではないかという話も出た。また行政の視点から見ると、例えば歴史と文化は一緒の括りになるようなところもあるので、中身は少し再考する必要があるかもしれないが、結論としてはこういう哲学的なものをメッセージとして発信する。それが行政の課題とリンクし、総合政策や各種政策に反映され、それを市民の皆さんにも理解してもらうための各種手段を多様に展開していくことが大事ではないかという点について B 班では議論された。</p> <p>○中村会長 これ以て議事を終わらせていただく。</p> <p>○事務局（林）連絡事項等特になし。</p> <p>○寺田副委員長 閉会</p>
----------------------------	--